

## 遊びで楽しむ 季節の行事

# 生活の中の心豊かさを大切に 世代をつなぐコミュニケーションの きっかけづくり



季節の行事は、着飾る・食べる・特別な飾りをするなど、地域のしきたりや家族のあり方の中で、ハレの日として時代と共に変化しながら伝えられています。季節を知るとは、健康を気遣うことであり、生活を楽しむきっかけとなります。生活を楽しみ、暮らしが豊かに感じられることが、生きることの幸福感につながります。

〔こどもの城〕では、季節ごとの行事にあわせたさまざまなくあそびのプログラムを実施しています。『昔あそび』を体験する〈お正月〉、〈参加劇〉を通して由来を学ぶ〈節分会〉、飾りを作って楽しむ〈桃の節句〉、短冊を笹竹に飾る〈七夕〉などを行っています。プログラムを行う時は、それぞれの行事の由来を伝えることが大切です。情報の多様化で華やかで楽しいものや商業的な部分だけが取り上げられることが多くなっていますが、あらためて、その由来を確認することで、行事ごとの奥深さや所作に学ぶことができます。

行事をきっかけに、子ども同士、親子・親同士など、世代を超えた多くの人とコミュニケーションを深めることを大切にしています。

### ■「節分会 大まめまき大会」〈節分会〉

〔こどもの城〕の〈節分会〉では、「プレイホール」で子どもの成長と無病息災を願った約45分の〈参加劇〉を行っています。通常は、大型遊具で遊んだりする「プレイホール」もこの時だけは、いつもの〈あそび〉の空間全体が子どもだけでなく大人も巻き込んだ劇の舞台と変身します。

劇は四幕構成で、1. 節分の由来を知る 2. 鬼の襲来 3. 鬼退治の準備 4. 鬼退治で行います。

1幕では、「どうして、豆まきするの？」など節分の話から始まります。話が終わるや、ホールは一気に暗くなり、雷の音が轟き、恐ろしい鬼たちが登場します。鬼が登場する2幕では、会場が暗転することで、子どもたちは一瞬にして「ファンタジーの世界」へと入り込みます。

3幕では、指導者がどのようにしたら退治できるかを参加者全員に聞きます。みんなで「豆まき」で鬼退治することを確認しあい、「ハラハラドキドキ感」を盛り上げます。子どもたち

は怖いのをぐっとこらえ、鬼退治へと向かいます。

最後の4幕では、みんなで鬼に豆をまいてこらしめます。参加者みんなが協力して鬼を退治したことは、子どもたちに安堵感と達成感の両方をもたらす、親子の絆も深めます。

事前に、暗幕などを利用して暗くなるように会場を作り、役割（鬼、福の神など）にあった衣装や小物の準備など、事前の環境設定が大切です。照明や音響などを駆使すると、より効果があります。そして、本番では、役割のある登場人物は恥ずかしながらになりきった“うそ”のない姿を演じきることです。

「ファンタジーの世界」を体験するとき、仕掛け側は、現実との境目を意識して起結すると、よりその世界を楽しんでもらえる効果があります。〈節分〉の場合、暗闇から平常の照明などへの変化は、とても有効的です。暗闇は、真っ暗でなくても十分に効果的なので、子どもには、怖がらせすぎず、少しだけ逃げ場を作ってあげてください。

